

テーマ「小児看護学実習・小学校実習での保健指導」

カテゴリー：②教育内容（実習）

1. 学校概要：学校名：岩手県立宮古高等看護学院

所在地：岩手県宮古市崎鋏ヶ崎 4-1-13

課程名：3年課程 | 学年定員数：32名 就業年限：3年

2. 内容

私たちの学校の小児看護学実習は、病院、保育所、認定こども園、支援学校、小学校の5カ所の施設で行われている。それぞれの施設で、乳幼児期・学童期の子どもや障がいを持つ子どもとふれあいながら、成長発達の特徴を学び、地域で生活する子どもたちの現状を知る機会となっている。

少子化に伴い、病院に入院する患児が減少していることから、小児看護学実習を病院以外の乳児園や保育所で行う看護師養成所もあるが、小学校で実習を行う学校は珍しいのではないかと思います。

小学校実習では、1グループ3名の学生が1年生から6年生のクラスに入り、児童と共に授業を受ける。休み時間には児童と一緒に遊び、各教室で多くの児童とかかわることで学童期の子どもの成長発達を学ぶ。保健室で養護教諭の児童への対応も見学し、学童期の健康について考える機会となっている。

最終日には、1クラス（学年）の児童を対象に、保健指導を行っている。学生は実習までに指導計画を立案、保健指導に活用する教材を作成し、リハーサルを重ね本番に臨む。児童の前に立つ学生は最初緊張しているものの、子供たちの反応に笑顔になり、張り切って指導を行っている。

実習後の学生へのアンケートで保健指導の実践について感想を聞くと、「思っていたより積極的に児童が参加してくれて嬉しかった、楽しかった、達成感を感じた」という声が多くあった。また、「楽しく指導できたが、もう少しわかりやすく工夫すればよかった」「根拠も伝わる内容だとよかった」と自分たちの課題についての感想もあった。

子どもたちと多く触れ合う中で、学生それぞれに達成感があり、充実した実習となっていると感じる。また、現代の子どもの健康問題と関連する子どもを取り巻く環境や社会問題について考える機会となっている。

小学校実習は、20年以上前から行われ、現在は、私たちの学校のある宮古市内7カ所の小学校に実習を受け入れていただいている。コロナ禍となってからも、感染対策を行いながら継続している。

<昨年度の保健指導テーマ>

生活リズムについて	睡眠の大切さ	歯の大切さ
-----------	--------	-------

<実際の保健指導の場面>



<終わってほっとした学生>

